

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	就労準備型放課後等デイサービス ふれんずの樹		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 25日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせて、取り組む課題を選定し療育にあたることができる。	アセスメントや日々の支援記録をもとに、子どもの発達段階・特性・興味関心に応じた療育内容を日々検討している。 集団活動と個別課題を組み合わせ、成功体験を積み重ねられるように配慮する。 子どもの「できた」「やってみよう」を大切にし、課題の難易度を柔軟に調整している。	職員間での情報共有やケース検討会の機会を増やし、より多角的な視点で療育内容を検討していく。 支援計画と日々の支援内容のふりかえりを定期的に行い、より適切な療育につなげる。
2	子ども・保護者の満足度が高い。	子どもの様子や成長について、日々の連絡や送迎時の情報交換を通して丁寧に行っている。 保護者の思いや困り感を受け止め、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。 子ども一人ひとりの良いところや頑張りを積極的に伝え、肯定的な関わりを大切にしている。	定期的なアンケートや面談を通して、保護者の意見や要望をより丁寧に把握していく。 保護者支援の視点を意識し、家庭との連携をより深めた支援につなげる。
3	社会出するための準備としての活動・課題を用意している。	年齢や発達段階に応じて、生活面・対人面・作業面を意識した課題を設定しています。 挨拶・連絡・相談・時間を意識した行動など将来の社会生活を見据えた支援を行っている。 成功体験を通して「できる」「役に立てる」という自己肯定感を育てることを意識している。	就労や進学を見据えた活動内容を整理し、段階的なステップを意識した支援を行っていく。 地域資源や関係機関との連携を視野に入れ、社会とのつながりを感じられる機会を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応や、災害や不審者を想定させた訓練に関する認知度が低い	非常時対応マニュアルや避難手段は整備しているものの、保護者への周知や確認が十分でなかった。 避難訓練の実施回数や振り返りの時間が限られており、非常時の行動イメージが共有しきれていなかった。	契約時だけでなく、定期的に非常時対応についての説明や情報提供を行い、安心して利用できる体制づくりを進めていく。 年間計画に基づき、定期的な避難訓練・非常時対応の確認を行い、各家庭にも周知する。
2	保護者同士・きょうだい児に倒す琉支援が十分に行えていない。	個々の子どもへの支援を優先する中で、保護者の交流やきょうだい児への配慮まで十分に行えていなかった。 支援内容や方法について、職員間での共通理解や検討の機会がすくなかった。	活動の見学会や交流の場を検討して、保護者同士がつながれる機会を作っていく。 面談を通して、きょうだい児に関する保護者の思いや困り感を丁寧に把握していく。 きょうだい児支援の視点を職員間で共有し、必要に応じた声掛けや配慮を支援に取り入れていく。
3	土曜日の開所ができていない。	安定した支援の質と安全な療育環境を確保するため、必要な人員配置を優先している。 現在の人員体制では、平日の支援体制を維持しながら土曜開所を行うことが難しい状況にある。	職員の採用状況や勤務体制を見直し、土曜開所の可能性について段階的に検討していく。 保護者のニーズを把握し、必要性や優先度を確認しながら、開所形態の検討を行っていく。